

# 宇都宮スキー技術選手権大会

新型コロナウイルス感染対策  
ガイドライン

## 1. 基本事項

### ■はじめに

新型コロナウイルスの感染を最大限に防止しながら競技会を運営するためには、選手、指導者、保護者、チームスタッフ、競技役員全ての方の理解と協力が必要である。ひとり一人が自覚と責任をもって自己防衛することが重要である。

### ■新型コロナウイルス感染症の基本事項

新型コロナウイルスの感染経路は、くしゃみや雫などの飛沫が目や鼻、口などの粘膜に付着したり、呼吸器に入ることによって感染する飛沫感染が主体と考えられている。

また、鼻水などの体液およびそれらで汚染させた環境に触った手で目や鼻、口などの粘膜に触れることによって感染する接触感染もある。有症者が感染伝播の主体であるが、無症状病原体保有者からの感染リスクもあるため、常に予防を意識する。

### ●飛沫感染予防

- ・選手、スタッフ、観客は原則マスクを着用する。
- ・咳エチケットを徹底する。
- ・人と人が対面する場所では可能であれば、パーテーションやビニールシートを設置する。
- ・飛沫は空気中を漂わず、空気中で短距離(1~2m)しか到達しないため、人と人との距離(1~2m四方)を確保する。
- ・屋内では換気を徹底する。

### ●接触感染予防

- ・流水と石けんによる手洗いもしくは擦式アルコール消毒薬(推奨アルコール濃度 60%~80%)による手指衛生の励行。(高濃度のアルコールによる手荒れはウイルスが手に残る原因となるため、ハンドクリームで保湿するとよい。)
- ・アルコールや抗ウイルス作用のある消毒剤含侵クロス(成分として、アルコール 60%~80%含まれるものが望ましい)で環境(テーブル、ドアノブなどの高頻度接触部位)の清拭消毒を行い、清掃を行う場合は、手袋、マスクを着用する)

## 2. 参加者の遵守事項

### ■大会参加者に以下を周知、理解を求める。

大会の2週間前から大会当日までの下記事項に該当する場合は、参加の見合わせを求めること。

- ・発熱(37.5℃以上)を認める。
- ・せき、のどの痛みなどの風邪の症状がある。

- ・だるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある。
- ・臭覚は味覚の異常がある。
- ・体が重く感じる、疲れやすい等の症状がある。
- ・新型コロナウイルス感染者との濃厚接触歴がある。
- ・同居家族や身近な知人に新型コロナウイルス感染が疑われる方がいる。
- ・参加 14 日前までに政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航歴がある、または当該在住者との濃厚接触歴がある。

### 3. 施設管理

#### (1) 受付

- ①受付では、非接触型体温計、手指消毒剤、対面接触によるリスクを軽減のため、アクリル板・透明ビニールカーテン、接触感染予防のための手袋を準備して対応する。
- ②風通しの良い芭蕉、換気の設備も事前にチェックし、開催地の施設管理者と事前に打ち合わせで対応する。
- ③1～2mの対面距離を保つようなスペースを確保する。

#### (2) 開会式・閉会式

- ①原則、開会式及び閉会式は実施しない。

#### (3) ジャッジ

- ①1～2mの対人距離を取った椅子の配置、対面とならない配置を確保する。
- ②机、椅子、機材等、複数人が接触するものは定期的に清拭消毒する。

### 4. 運用管理

#### (1) 競技会場

- ①リフトに乗車する際は、マスクを着用し、対面での会話は控える。その他、監督官庁からの指導に従うこと。
- ②外したマスクは自身で管理できるよう袋に入れること。
- ③大きな声での会話や指導はしないこと。
- ④飲食については、指導場所以外で行わないこと、また共有しないこと。
- ⑤時間に余裕を持って行動すること。

#### (2) 選手待機場所

- ①1～2mの対人距離を取るように目印をする。
- ②「待機人数の削減」「人との距離を考慮した目印」「マスクの着用」「大声での会話」「対面での会

話」等飛沫感染予防について注意を促す。

- ③屋外のスキー場ではフェイスマスクを使用している場合は、マスクの着用の強制はしない。対人距離を十分注意し、選手が溜まりすぎないように、予め選手にスタートエリアに入場する時間を指定する。

## 5. 選手・関係者の皆様に守っていただきたい事

### (1) マスクの着用について

- ①選手は競技中・ウォーキングアップ・クールダウン時を除いて、常時マスクを装着する。(屋外においては防寒・暴風のためのフェイスマスクやネックウォーマー等でも可。待機時間や休憩等屋内で過ごす際にはマスクが望ましい。)
- ②ウォーミングアップ後の競技直後、呼吸が落ち着くまでマスクは装着しなくても良いが、荒い呼吸は飛沫が多くなり感染リスクが増大するため、対人距離や咳エチケットに留意すること。
- ③審判員、スタート地点のスタッフ等選手の近くで活動する者は常時マスクを着用すること。マスクを外した選手と会話することで目の粘膜に飛沫が飛ぶ可能性を考慮し、フェイスガードやゴーグル、サングラス等の装着することが望ましい。
- ④マスクが汚染や水濡れ等で使用できなくなることを考慮し、替えを持参すること。
- ⑤使用済みのマスクは会場で破棄せず、自身で持ち帰ること。

### (2) 大会当日の留意事項について

- ①大声での会話や指導は避け、常に1～2mの対人距離をとって行動する。
- ②大会受付において、検温を実施するとともに、体調チェックシートを提出する。
- ③当日の検温にて発熱が認められた場合は、会場内に入場しない。
- ④会場内で体調不良になった場合は、近くの大会スタッフに申し、移動せずにその場で指示を待つ。

### (3) 宿泊に伴う注意事項

- ①食事の際は、できる限り真正面に向き合わないようにして、斜めに座る。食事中はマスクを着けられないことから飛沫を飛ばさないように会話を控える。
- ②飲食を伴う懇親会は、飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また聴覚が鈍麻し大きな声になりやすいことから控えること。
- ③飲酒する際は、室内の換気を良くして、少人数で短時間とする、座の配置は斜め向かいとし正面や真横はなるべく避ける。食べるときだけマスクを外し、会話の時はマスクを着用し大声を出さず会話はできるだけ静かにする。
- ④共用施設の清掃・消毒、手洗い・アルコール消毒を徹底する。